

平成 29 年度用

高等学校教科書

新編 国語総合

編集の趣意と特色

現代文編

古文編

漢文編

口絵・付録

教材品・
教授資料

全文掲載教材



17 教出 国総 343

教育出版

新編 国語総合

国総 343

学習意欲を継続させ、国語力の基礎・基本が確実に身につく「国語総合」。

新鮮で読みやすい教材と定評ある教材をバランスよく選定

改訂のポイント

単元数を
8▶10に増量
教材数も
17▶22に増量

現代文編

- 随筆から入り、単元が進むごとに内容がステップアップし、高校国語の基礎から応用まで、確実に身につけられる構成にしました。
- 文字を大きく、読みやすく理解を助けるデザイン、レイアウト。
- 小説・随筆・評論・戯曲とも教材数を増やしました。
- 小説は、安定感と親しみやすさを兼ね備えた教材を数多く掲載し、6本（国総310）↓7本に増やしました。
- 評論は様々な分野の現代的課題を取り上げ6本（国総310）↓7本、随筆を0本↓2本に増やしました。
- 「学習の手引き」には、適宜解き方のヒントを添え、生徒の自学自習を助けます。

表現編

- ワークを中心とした実際に書く活動をととして、表現力の向上を図りました。
- メールと手紙、スピーチ、小論文など、基礎・基本から本格的表現活動まで、確かな表現力が身につきます。

古文編

- 入門教材は、二単元三段階の教材化（中学校教材を中心に音読↓全文傍訳↓部分傍訳）で、より丁寧に。
- 説話、随筆、物語、和歌と俳諧、紀行文など、教材のジャンルを幅広くバランスよく選定。
- 「現代文編」と同じく「学習の手引き」には「ヒント」を付し、学びやすさをアップしました。

漢文編

- 作品の理解をより深められるよう、ストーリー性を重視した「故事」「史伝」単元を再構成しました。
- 「現代文編」と同じく「学習の手引き」には「ヒント」を付し、学びやすさをアップしました。

新編 国語総合 編集委員

〔新編 国語総合 編集委員〕
影山輝國 実践女子大学教授
長沼行太郎 元関東短期大学教授
室城秀之 白百合女子大学教授
青嶋康文 東京都立南多摩中等教育学校教諭
大竹智子 学習院女子中・高等学校教諭

小野寺伸一郎 東京都立両国高等学校教諭
幸田国広 早稲田大学教授
小森 潔 湘北短期大学教授
小山大地 桐蔭学園高等学校講師
佐野正俊 拓殖大学教授
諏訪部泰斗 神奈川県立瀬谷西高等学校教諭
滝澤美恵 東京都立日比谷高等学校教諭

谷口雅博 國學院大学准教授
豊澤弘伸 宮城学院女子大学教授
中里有希 東京都立武蔵丘高等学校教諭
長谷川充 千葉県立佐倉高等学校教諭
保戸塚朗 東京都立日比谷高等学校教諭
六谷明美 東京学芸大学附属高等学校教諭

単元・教材を増量し、読みやすく、現代の課題に即した作品を厳選しました。
漢字・語句のトレーニングや読書案内を設け、読む力の習得と活用を図っています。
文字も大きく、読みやすいデザイン、レイアウトで、生徒の学習意欲を高めます。

現代文編

ズームアップ

現代文を読むために必要な基礎的な事項を、10のコラムに集約しました。

小説は ▼3単元7本。
随筆・評論は ▼4単元9本。

一 随筆

頭の中の無限大
『赤毛のアン』との出会い

坂口恭平
茂木健一郎

ズームアップ① 現代文入門——未知の自分と出会う

二 小説1

雨傘

川端康成

デューク

江國香織

ほねとたね

川上弘美

ズームアップ② 小説の読み方1 人物の心情を捉える

三 評論1

想像するちから

松沢哲郎

彼らがそれを学ばなければならない理由

内田 樹

ズームアップ③ 評論の読み方1 筆者の意見を理解する

四 詩

サーカス

中原中也

わたしが一番きれいだったとき

茨木のり子

二十億光年の孤独

谷川俊太郎

ズームアップ④ 詩の形と響きについて

五 戯曲

少年口伝隊一九四五

井上ひさし

ズームアップ⑤ 戦争と文学

六 小説2

とんかつ

三浦哲郎

葉桜と魔笛

太宰 治

ズームアップ⑥ 小説の読み方2 場面や状況を捉える

七 評論2

水の東西

山崎正和

治 具

塚本由晴

ズームアップ⑦ 評論の読み方2 抽象的な表現と思考に慣れる

八 俳句・短歌

折々のうた

大岡 信

ズームアップ⑧ 句会を開いてみよう

九 小説3

羅生門

芥川龍之介

夜中の汽笛について、あるいは物語の効用について

村上春樹

ズームアップ⑨ 小説の読み方3 視点や語りに注目する

十 評論3

物語られた過去

内山 節

自然保護の二面性

森岡正博

見えない貧困——自己責任論批判

湯浅 誠

ズームアップ⑩ 評論の読み方3 異論・反論を想定した論の展開を知る

表現編

①メールと手紙

④小論文を書こう

②スピーチをしよう

⑤会議と話し合いの技法

③ディベートをしよう

⑥詩歌を作ろう

表現編

まずは話してみよう、書いてみよう、
となるような、楽しい言語活動を6本の
教材で提案しました。

冒頭教材

頭の中の無限大

考え方しだいで、世界は無限大に広がる。

見やすい文字
本文の文字を大きく見やすく美しくしました。

短く親しみやすい
学習者が等身大の感覚で読み味わえます。

坂口恭平
さかぐちきょうへい

小学生の頃、六畳一間の子ども部屋には僕、弟、妹三人の机が並び、ピアノが置かれていた。それだけでもう満杯である。さらに三人がそこで遊ぶわけである。それはそれで楽しいのであるが、たまには一人でゆつくりしたいなんて時もある。しかし、他に行く場所はない。この六畳一間でどうにかするしかないのだ。好きなようにできる場所は愛用の学習机に限られている。

そこで僕は思いついた。

学習机しかないのなら、そこを一人でゆつくりできる空間に変化させればいい。たとえ狭くても、視点を変えさえすれば自分だけの空間を手にすることができはすだ。そう考えた僕は、図画工作の授業で使っていた写生用の画板を持ってきて机と椅子の間に橋のように架けた。これが屋根になる。そして、押し入れか

ら毛布を取り出してきて画板の上から掛けた。いつの間にか学習机は、みごとに洞窟のような空間に変身した。床に、布団を敷けば完成。僕はその中に潜り込み、蛍光灯スタンドをともし、食事をし、さらに寝ることにした。まるでそこは潜水艦の1コクピットのようだった。

コクピットの周りには、自分に必要な機器、道具がそろっている。自分の体を空間に合わせていくのではなく、逆に、必要な要素全てを人間の近くに持つてきて、設置しているのだ。このやり方だと、どんなに小さく狭い場所であっても、人それぞれ独自の空間ができ上がる。

それはとても衝撃的な体験であった。いつもは作業をしていた机の下に入り込んで、座るための椅子をテーブルのように使うだけで、非日常的な空間が手に入る。狭いと思っていた机の下は、そこに身を置くととても心地よい空間だった。さらに洞窟の隙間から、外を眺めると、いつもの混沌とした子ども部屋ではなく、まるでサバンナの荒野のように感じられたのだ。視点を変えると、まだまだ小さな部屋には可能性が残されていた。

これは大きな発見だった。欠如というものが新たな空間を生み出すのである。



一九七八（昭和53）―作家。建築探検家。熊本県に生まれた。路上生活者の住居を調査するなど、独自の視点で社会を観察し、新しいコミュニケーションの可能性を志向する。著書に『0円ハウス』『徘徊タクシー』など。本文は『TOKYO一坪遺産』（二〇〇九年刊）によった。

？何を「思いついた」のか。

脚注
本文の展開に即して押さえるべき記述を確認します。

脚注
簡潔で丁寧に説明しています。

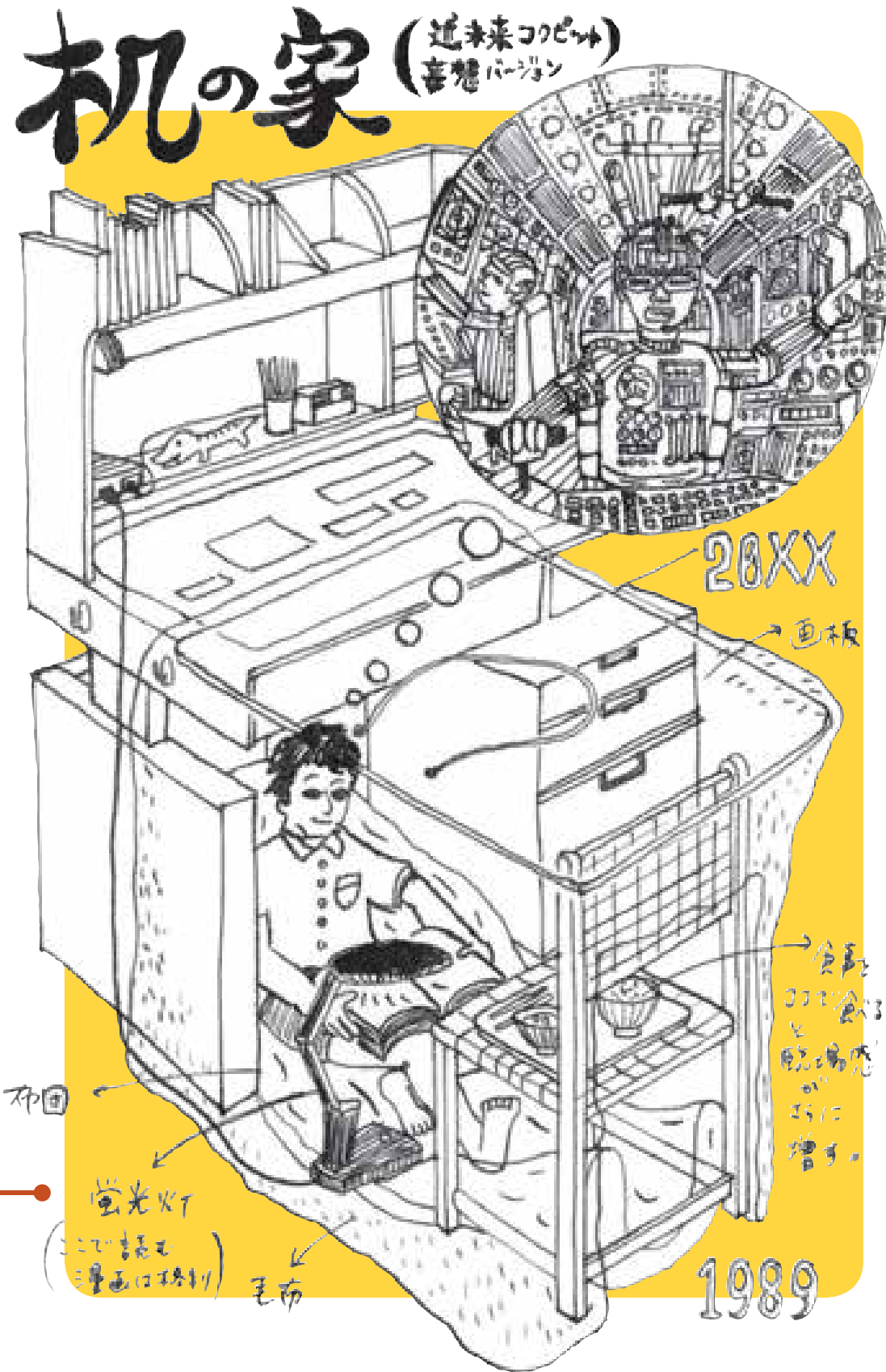
1コクピット 航空機・船舶などの操縦席・室。

語句
意味調べ、文を作るなど、学習活動を提示しています。

語句
図 視点を变える
図 非日常的

漢字
畳 満杯 狭い
架ける 掛ける
洞窟 床
潜り込む 蛍光灯
潜水艦 衝撃的
欠如

漢字
見開きページごとに漢字検定二級までの語句を取り上げています。



イラスト・写真を多数掲載
冒頭教材「頭の中の無限大」は、筆者自筆のイラストを全ページ大で置いています。

子どもの頃は、狭いからといって部屋を改築するわけにはいかない。お金も技術もない。それ以前にめんどくさい。時間をかけてそんな大工事をやっている暇はないのだ。できるだけ何も手を施さずに、新しい世界を次々と作り出すにはどうしたらよいか。

「目の前の空間には実は無数の自分の知らない、気づいていない空間が隠されている。それを利用するしかない。」

僕にはそれが唯一の方法に見えた。ないからといって、新しく自分の欲する物を作り上げたとしてもそれはまた新しく限られた空間が増えたということにすぎないのである。もつと大きな空間を体験したいのなら、逆になにひとつ作ることなく、見えない空間があるということを感じるこのほうが重要である。

この巣作りの体験はそれを僕に体感させてくれた。

そして、現在。街を歩くと、今日もまた新しい建物が作られている。どんどん巨大化、高層化し続け、もはや人間が作ったものとは思えないほどである。いつたい、どれだけの空間があれば人は満足するのか。足りることは永遠にありえないのだろうか。そんなことを考えているとき、僕はいつもあの巣を思い出すので

15

10

5

漢字
暇 施す 隠す
唯一 欲する
巨大化

「それ」は何をさすか。

漢字の書体
書いて練習するサンプルとなるよう、
教育出版教科書体を使用しています。

ある。

空間の大きさと心地よさは比例しないと僕は思う。欠如を実感し、それを補うために新しい視点というものが生まれるのであれば、たとえどんなに狭いところだろうがそこで楽しむことができる。人間は本来それができる生き物なのではないか。

これから必要なのは、広い空間、巨大な建築ではなく、広く、壮大に感じるこ
とのできる感覚と、そして小さな建築である。昔、自分がかもしも虫ぐらいの大き
さだったら、世界がどんなふうに見えるのだろうといつも僕は空想していた。そ

う、あの感覚である。そして、

それは子どもだけでなく、実は
全ての人がもっている感覚なの
ではないかと僕は思う。考え方
一つで、世界を無限大に感じる
ことができるのである。



「モバイルハウスの住宅展示場」より
「Mobile Window House」

筆者作成の可動式の住宅。美術館で
展示されました。

学習の手引き

学習の手引き

平易な活動を積み上げることで、確
かな国語力が身につきます。

1 子どもの頃の筆者は、別の空間に変化させた「学習机」を何にたとえているか、
抜き出してみよう。また、挿絵（13ページ）を見て筆者が完成させた空間を確認し
てみよう。

2 「欠如」というものが新たな空間を生み出す」（11ページ15行）とはどういうことが、
説明してみよう。

3 これまでの生活を振り返って、筆者のよさに「視点を考える」（11ページ13行）こ
とによって大きな発見をしたことがあれば、紹介し合ってみよう。

漢字と語句のトレーニング「1」

一 傍線部を漢字に直そう。

- ①六|ジョウ|一間の部屋を片づける。
- ②駅|の|駐輪場はマン|パイ|だ。
- ③車がセ|マイ|道を通る。
- ④ユ|カ|暖房が温かい。
- ⑤水にモ|グ|って速く泳ぐ。
- ⑥ショウ|ゲ|キ的なニュースに接する。

二 傍線部の漢字を使った熟語を集めよう。

〈例〉正確（確実・確認・的確・確信・
明確・確立）

- | | | |
|------|-----|------|
| ①愛用 | ②視点 | ③可能性 |
| ④欠如 | ⑤世界 | ⑥体感 |
| ⑦巨大化 | ⑧補う | ⑨空想 |

本文脚注で取り上げた漢字のうち、
漢字検定三級・四級の漢字に限定して
出題しています。

読書案内

関連する本を紹介し、学習したこと
のさらなる習得・活用が図れます。

読書案内

『独立国家の
つくりかた』坂口恭平



東日本大震災による福島第一原発事
故をきっかけに、「新政府の樹立」を
宣言。周囲にあるものを活用して、0
円で避難民を受け入れる。何かを変え
るのではなく、思考を広げることこ
生の無限の可能性を導き出す。

ヒント

解き方のヒントを設け、自学自習を
促します。

ヒント② 筆者にとつての「欠如」と
は何か、確認する。

ヒント③ 筆者が発見したことだけで
なく、

- ・空き地の土管を秘密基地にする
 - ・ペットボトルをプランターにする
- なども考えられる。

漢字

補う 壮大

第一単元 随筆

『赤毛のアン』の大ファンである筆者の、アンと想像力と読書をたたえる随筆。

イラスト・写真を多数掲載
学習意欲を高めます。

『赤毛のアン』との出会い

茂木健一郎

「背表紙が呼んでいる」という表現がありますよね。まさにそれでした。それは小学校五年生のときのことです。学校の図書館で本棚を眺めていたら、ふとそこに並んでいた『赤毛のアン』と



というタイトルが、目に飛び込んできました。気になって手に取ったところ、あっという間に夢中になり、そして一気に読み終わってしまった。読書後の感想、それは、「衝撃」の一言に尽きます。

小学生の低学年の頃から、僕はすでにありとあらゆるジャンルの本を乱読していました。学校の図書館から、あるいは自宅の本棚から、次々に本を抜き取っては片っ端から読み進めていった。おそらく一年に二百冊以上は読んでいたと思います。空が晴れたら蝶を捕まえに森へ行き、雨が降ったら室内で読書。まさに、「晴耕雨読」の生活です。

けれどもその僕にとっても、『赤毛のアン』はいまだかつて出会ったことのないタイプの作品でした。主人公のアン・シャーリーは、「喜びの白い道」とか「輝く湖」、あるいは「恋人の小道」といったふうに、自分が気に入った場所にどんどん勝手に名前をつけていく。あんな形で想像の翼を自由に羽ばたかせる主人公が出てくる小説を、僕はそれまで読んだことがありませんでした。想像することの大切さを、あそこまで強烈にアピールした小説というものに、出会ったことがなかったのです。

「やられた！」という感じで、完全にはまってしまった。しかしなんといつても、まだ小学生です。衝撃を受けたのはいいが、その感情がどこから来るものなのか、はつきりとは理解できませんでした。自分の中の



一九六二（昭和37）―脳科学者。東京都に生まれた。「クオリア」（感覚の持つ質感）をキーワードとして脳と心の関係、脳と創造性の関係を研究している。著書に『脳とクオリア』『脳と妄想』など。本文は『赤毛のアン』に学ぶ幸福になる方法（二〇〇八年刊）によった。

1『赤毛のアン』 原題は Anne of Green Gables。カナダの作家、L・M・モンゴメリーの小説。一九〇八年刊行。カナダ東海岸のプリンスエドワード島を舞台に、孤児院から引き取られた少女アンの成長を描いている。

2晴耕雨読 晴れた日には田畑を耕し、雨の日には家で読書すること。自分の思いのままに生活することをいう。

「あんな形」とは、どのようなことか。

「その感情」とは、何か。

図……の一言に尽きる

意乱読

漢字

本棚 眺める
飛び込む 尽きる
抜き取る
捕まえる 輝く
翼

語句

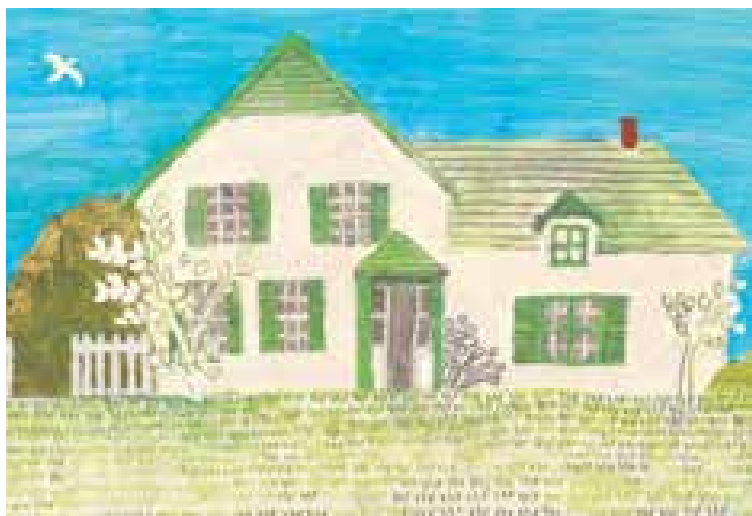
文……文を作る。
意……意味を調べる。
重要な語句を取り立て、活動指示を添えて示しています。

「好き」という気持ち、その正体がつかめなかった。

しかし、実はこの「正体がわからない」という感覚は、とても大切なものなのです。人はある作品に魅了されるとき、実際にはその正体が完全には理解できていないことが多い。これは恋愛においても同じことが言えるのですが、つまり相手を「好き」という感情は、自分でもどうしてなのかその理由がわからないときに、いちばん燃えるんです。相手の正体を理解できていないときこそ、いちばんとらわれる。全てを把握することができないからこそ、魅了される。僕にとつての『赤毛のアン』は、まさにそれだったのです。

たとえてみれば、胸の中に蝶が一匹飛んでいるようなものです。その正体はわからない。でもわからないなりに、心の中で自由にその蝶を飛ばしている。無理にその正体を暴こうとはせずに、大切に自分の胸にしまっておく。それくらい僕にとつては、この作品は大切なものでした。ただ、それほど「アン」にはまっていたにもかかわらず、僕はそのことを周囲には公言してきませんでした。それはなぜなのか。

例えば僕は、他にも夏目漱石や映画監督の小津安二郎が好きなのですが、こう



いった人たちは、世間でもある程度その評価が確立しています。僕が、彼らの業績を「すごい」と言つても、それは万人が認めることであつて、なにも特別なことではない。僕が彼らの作品を「好き」と言つても、別に恥ずかしいことではないのです。

けれども『赤毛のアン』の場合、少し事情が違ってきます。この作品は、一般的には児童文学として位置づけられています。名作とはされていますが、やはり「大人の文学」とは見なされていない。僕の中ではすばらしい作品だとわかつていてるけれども、

それでもまだ落着きどころがわからない。その魅力の全てを把握しきれではない気がする。それは言いかえれば、自分の中に青春の「もやもや」が、まだ残っているということなのかもしれません。僕の青春時代が未解決のまま残っている。

3 夏目漱石

小説家。英文学者。江戸（現東京都）に生まれた。日本近代文学の代表的作家。著書に『吾輩は猫である』『坊っちゃん』『三四郎』『こころ』など。（八巻―一九六）

4 小津安二郎

映画監督。東京都に生まれた。戦前・戦後を通じて、家族や結婚をテーマに数々の名作を生み出した。作品に『晩春』『東京物語』など。（一九三―一九六）

語句

❓ 「落着きどころがわからない」とは、どういうことか。

意公言

意業績

漢字

魅了 把握 匹
暴く 監督 彼ら
違う 一般的

『「赤毛のアン」との出会い』

茂木健一郎



2 『赤毛のアン』の舞台となったプリンスエドワード島

1

第二単元 小説1

デューク

えくに かおり
江國香織



歩きながら、私は涙が止まらなかった。二十一にもなった女が、びよおびよお泣きながら歩いているのだから、他の人たちがいぶかしげに私を見たのも、無理のないことだった。それでも、私は泣きやむことができなかった。

デュークが死んだ。

私のデュークが死んでしまった。

私は悲しみでいっぱいだった。

デュークは、グレーの目をしたクリーム色のムク毛の犬で、プーリー種という牧羊犬だった。わが家にやってきた時には、まだ生まれたばかりの赤ん坊で、廊下を走ると手足が滑ってぺたんと開き、すーとおなかで滑ってしまった。それ

5

「びよおびよお泣きながら」とはどのような様子か。

漢字

涙 赤ん坊 廊下 滑る

がかわいくて、名前を呼んでは何度も廊下を走らせた。（そのかつこうがモップに似ていると言って、みんなで笑った。）卵料理と、アイスクリームと、梨が大好き物だった。五月生まれのせいか、デュークは初夏がよく似合った。新緑の頃に散歩に連れていくと、匂やかな風に、毛をそよがせて目を細める。すぐにすねるたちで、すねた横顔はジェームス・ディーンに似ていた。音楽が好きで、私がピアノを弾くと、いつもうずくまって聴いていた。そうして、デュークはとても、キスがうまかった。

5

1 ジェームス・ディーン
アメリカの映画俳優。
一九三―一九五

死因は老衰で、私がアルバイトから帰ると、まだかすかに温かった。膝に頭を載せてなでているうちに、いつのまにか固くなって、冷たくなってしまった。デュークが死んだ。

10

次の日も、私はアルバイトに行かなければならなかった。玄関で、妙に明るい声で

15

「なぜ「明るい声」で言ったのか。」



『デューク』は、多くの先生がたから掲載のご要望を受けました。

第六単元 小説2

とんかつ

三浦哲郎



須貝はるよ。三十八歳。主婦。

同 直太郎。十五歳（今春中学卒業）。

宿泊カードには瘦せた女文字でそう書いてあった。住所は、青森県三戸郡下の村。番地の下に、光林寺内とある。

近くに景勝地を控えた北陸の城下町でも、裏通りにある目立たない和風の宿だから、こういう遠来の客は珍しい。

日が暮れて間もなく、女中が二人連れの客だということで、どうせ素泊まりの若い男女だろうと思いつきながら出てみると、案に相違して地味な和装の四十年配の女が一人、戸口にひっそり立っている。連れの姿は見えない。

女は、空気があれば二泊したいのだが、と言った。言葉に、日頃聞き慣れない訛りがあった。

「お一人様で？」

「いえ、二人ですけれど。」

女は振り返って、半分開けたままの戸の外へ鋭く声をかけた。ちゃんづけで名を呼んだのが、なおちゃ、と聞こえた。青白い顔の、ひよろりとした、ひよわそうな少年が戸の陰から現れて、はにかみ笑いを浮かべながらぺこりと頭を下げた。両手に膨らんだボストンバッグを提げている。もう三月も下旬だというのに、まだ重そうな冬外套のままで、襟元から黒い学生服がのぞいている。そういえば、女のほうも厚ぼったい防寒コートで、首にスカーフまで巻いていた。

「これ、息子でやんして……。」

女もはにかむように笑いながら、ひつつめ髪のほつれ毛を後ろへかき上げた。初めは、近から市内の高校へ受験に出てきた親子かと思ったが、女中によれば、高校の入学試験は半月も前に済んだという。そんなら、進学準備の買物だろうか。下宿探しだろうか。それとも、卒業記念の観光旅行だろうか――いずれに

『とんかつ』は、多くの先生がたから復活させてほしいというご意見をいただきました。

一九三一（昭和6）―二〇一〇（平成22） 小説家。青森県に生まれた。肉親の相次ぐ死、失踪の体験が契機となって創作を始める。太宰治、井伏鱒二の影響を受け、人生の喜怒哀楽を静謐で淡々とした私小説的手法で描く。作品に『忍ぶ川』『拳銃と十五の短篇』『白夜を旅する人々』など。初出は『三浦哲郎自選全集第七巻』（一九八八年刊）の月報。本文は『みちづれ』（一九九一年刊）によった。

1 女中 旅館などに雇われて炊事・配膳・掃除などに従事する女性のこと。

2 ひつつめ髪 引きつめて後ろで束ねた髪。

語句

○ 景勝地を控える

○ 案に相違して

漢字

宿泊 控える

珍しい 鋭い

陰 提げる 下旬

襟元

想像するちから

まつざわてつろう
松沢哲郎

人間を他の霊長類と区別する最も大きな特徴はなんだろうか。究極的にいえば、それはイマジネーション、想像するちからではないかと思う。

チンパンジーは絵を描く。色を選ばせると、自分で適当に色を選ぶ。まずはチンパンジーたちが描いた絵を見ていただきたい。図1aはチンパンジーのアイのなぐり描きだ。けっこうすてきで、気に入っている。荒々しい筆遣いがいい。

bはカンジというボノボが描いた絵。カンジだつて似たようなものを描いている。cはココというゴリラが描いた。これを見て、花という手話サインをしたという。dは、ワシューという有名なチンパンジーが描いたもの。ワシューもこれを描いたら何か手話で言ったはずだ。

しかし、基本的にはみんな同じで、チンパンジーは具象物を描かない。



図1c ゴリラのココ



図1a チンパンジーのアイ



図1d チンパンジーのワシュー



図1b ボノボのカンジ

10

5



一九五〇（昭和25）― 霊長類学者。愛媛県に生まれた。チンパンジーの心の研究を通して人間の心の進化を探求している。著書に『チンパンジーから見た世界』『おかあさんになったアイ』など。本文は『想像するちから―チンパンジーが教えてくれた人間の心』（二〇一一年刊）によつた。

1 ボノボ 動物分類で、チンパンジーとともにヒト科チンパンジー属に属する動物。チンパンジーより上半身と脳容量が小さいが、チンパンジーよりよく直立二足歩行をする。

豊富な写真資料
学習の助けとなる資料写真を豊富に添えています。

語句
意味調べ、文を作るなど、学習活動を提示しています。
対義語・類義語は解答を示し、習得と活用を促しています。

漢字
図具象―抽象
霊長類 特徴
筆遣い

漢字
見開きページごとに漢字検定二級までの語句を取り上げています。

自然保護の二面性

もりおか まさひろ
森岡正博

自然環境の保護を哲学的に考える。

私が「環境倫理」という言葉を知ったのは、今から三十年ほど前のことである。当時、哲学や倫理学を専攻していた私は、地球環境問題について文系の学問がどのように関わっていけばいいのかを考えていた。それらについて調べていると、¹環境倫理学、²生態系倫理学というものがちょうど成立し始めたところらしいということがわかってきた。

そこでは、このようなことが議論されていた。

例えば、ナイアガラの滝は貴重な自然景観であるから、そのままの形で手を付
けずに保全しなければならないと言われる。しかしながら、実は、ナイアガラの
滝はその強烈なエネルギーによって、滝の岩石を少しずつ崩している。であるか
ら、時がたてば、滝の形は変わっていくのであり、やがてこの美しい景観は崩壊



ナイアガラの滝

してしまうかもしれない。だ
としたら、その景観を守るた
めに、人間はテクノロジーを
使って、滝が崩れないように
保全するべきかもしれない。
しかしそのように補強したナ
イアガラの滝というのは、も
はや貴重な自然景観とは言え
ないのではないだろうか。
このように、美しい貴重な
自然をそのままの姿で守ろう
とすると、どうしても人間が
手を入れて維持しなければな
らなくなる。自然保護という
営みに、人間による自然支配

15

10

5

10

5



一九五八（昭和33）― 哲学者。高知県に生まれた。生命倫理、科学を研究のテーマとし、従来の学問の枠組みを超えた思索を展開する。著書に『無痛文明論』『生命学をひらく』など。本文は『生者と死者をつなぐ―鎮魂と再生のための哲学』（二〇二二年刊）によった。

1 環境倫理学 地球環境問題に対して倫理的観点から考察する学問のこと。
2 生態系倫理学 生物群集やそれを取り巻く環境に対して倫理的観点から考察する学問のこと。

丁寧な語注

新しい時代のキーワードとなる語句を丁寧に解説しています。

漢字

環境倫理 哲学
専攻 強烈 崩壊
営み

漢字

見開きページごとに漢字検定二級までの語句を取り上げています。

井上ひさしによる、少年が主人公の
平和教材。

少年口伝隊一九四五 ― 井上ひさし



一九三四(昭和9)―二〇一〇(平成22) 劇作家。小説家。山形県に生まれた。その作品は奇抜な構成、奔放な言葉遊び、鋭い批評精神にあふれる。戯曲に『表裏源内蛙合戦』『頭痛肩こり樋口一葉』、小説に『手鎖心中』『吉里吉里人』など。初出は二〇〇八年五月号の「すばる」。本文は『井上ひさし全芝居その七』(二〇一〇年刊)によった。

人物

英彦 ひつひこ
正夫 まさお
勝利 かつとし
花江 はなえ
段原 だんばら
段原一丁目の老人

ギター奏者による序曲。

これからお聞きいただくのは
広島¹の、三人の少年の話です。
三人はともに国民学校の六年生、
その時たまたま、疎開先から帰っていました²。

【あらすじ】昭和二十年八月六日、夏休みのさなかの月曜の朝、
比治山³の麓。小さな家の庭で、英彦が妹とかくれんぼうをして
いる。英彦の両親は学校の先生をして出かけたところだ。
正夫は下駄屋⁴さんの店先でおばあさんの肩をたたいている。勝
利は澄んだ小川の流れの中でお母さんとお芋を洗っている。
その時、米軍機から原子爆弾が投下され、一瞬の大光量と
ともに、青空が裂け、天地が砕けた。
英彦の妹、両親も、正夫のおばあさんも、勝利のお母さんも
みな亡くなった。数十秒のうちに広島市の半分が消え失せ、そ
の日のうちに十二万人が亡くなり、二十万の人々が傷ついた。
顔見知りだった英彦、正夫、勝利の三人は、生きるため一つ
に固まることにした。校庭端に転がる土管がねぐらだ。
明くる朝三人が学校の井戸近くへ行くと、若い女の人に来て、
メガホンで演説のようなものを始めた。英彦のお母さんの教え
子で、家にもよく来ていた花江さんだ。彼女は中国新聞社に勤
めていたが、輪転機が焼けて新聞を発行できなくなったために
口で伝えて歩く新聞、口伝隊⁴の仕事をしていた。
花江さんは、「あれ、高野先生¹とこの坊ちゃんじゃなかつ
たん？」と英彦に話しかけると、三人を新しい寝場所となる、
新聞社近くの焼けたトタン板の小屋へ案内した。



広島出身の画家、ヒラノトシユキの
挿絵を豊富に添えています。

1 国民学校 一九四一年から一九四六年までの初等教育機関の名称。
2 疎開 空襲からの被害防止のために住民や建物を分散させたこと。
3 比治山 広島市の市街地東部にある小高い丘。
4 口伝隊 新聞、放送などの報道機関が機能を失ったとき、ニュースを口頭で伝えるために編成されたもの。

当時の用語も広島¹の言葉も丁寧に
解説し、朗読の実践を助けます。

1 メールと手紙

メールの書き方

メールは手軽な通信手段であるが、手紙とは異なる注意点もある。

◎送信前のチェック

- ・メールで問題ないか。
 - ・カーボン・コピー（CC）
- 先は必要か。

◎ 返信前のチェック

- ・ すぐに返信すべきか。
- ・ 返信に相手のメール本文を残してよいか。

・返信の件名が「Re:」でよいか。

宛先： 山田明子；木村健；坂上桃香；石野拓

CC： 田村悦子先生

① 件名： 修学旅行委員会開催のお知らせ

② 第2回の修学旅行委員会を、20××年5月20日（金）
15時30分から、視聴覚室で開きますので集合して
ください。

③ 前回配布した資料を持参してください。

以上
水元潤

学習のポイント

メールを書くために

- ①件名は具体的に書く
件名を曖昧にすると、相手に読んでもらえないおそれがある。初めてのメールでは、氏名や所属を件名のあとに明記するとよい。

- ×お知らせ ×こんにちは ×連絡
 ○広報委員会開催のお知らせ
 ○集合時間変更の連絡
 本文は左寄せで書く

ディスプレイで読むものなので、不要なスクロールをさせないために、本文は左寄せで書く。

- ③ 本文は簡潔に書く
- メールでは手紙のように時候の挨拶を書く必要はない。本文も簡潔な短い文で書くように

簡潔にポイントを
示します。

手紙の書き方

電話やメールやファクシミリといった
便利な通信手段が数ある現代にあっても、
手紙には格別の存在感がある。その長所
を生かす要点を確認しよう。

● 目的に応じて形式を活用する

改まった挨拶状などでは、形式や言葉づかいを整えるのも大切な配慮の一つだ。書き出しで悩まずにすむのだから、型があるのはむしろ便利なことだ。

◎できるだけ手書きにする

心をこめて書いた文字の印象深さは、活字の遠く及ばないところだ。少なくとも署名と宛名は手書きが望ましい。

●読み直してから投函する とうかん

手紙は保管されることも多いだけに、誤りのない表現を心がけよう。下書きをしてから書くと確実だ。

① 拝啓
早春の候、お健やかにお
② 過ごしのことと存じます。
③ 私も元氣にがんばっております。
④ さて、先日は………
………
……… 本当にありがとうございました。
⑤ では、末筆ながら、いつ
そうのご健康をお祈りいた
します。

⑥ 敬具

⑦ 三月一日

⑧ 〇川△子

⑨ 〇山△朗様

⑩ 追伸 写真を同封しました。

にしよう。
手紙を書くために

① 基本の形式

- ① 頭語
 - ② 時候の挨拶（日付と呼応）
 - ③ 安否の挨拶（相手が先・自分があと）
 - ④ 主文
 - ⑤ 結びの挨拶
 - ⑥ 結語（頭語と呼応）
 - ⑦ 日付（正式には〇年から書く。）
 - ⑧ 署名
 - ⑨ 宛名（敬称をつける。）
 - ⑩ 副文（書き忘れた事があるとき）
- 2 頭語と結語の呼応
- ・ 拝啓↓敬具
 - ・ 拝復↓敬具（返信の場合）
 - ・ 前略↓草々（②と③を省略した場合）
- 3 敬称の付け方
- ・ 様
 - ・ 御中（団体宛て）

課題

時候の挨拶のきまりを、調べてみよう。

古文編

解釈のために

古文の解釈のために必要な基礎的な事項をコラムにまとめました。

一 古文入門

● 古典の一節を音読しよう 233
● 解釈のために① 古典の言葉 230

二 説話

児のそら寝 236
老僧の水練 238
● 解釈のために② 現代語訳の仕方 241
〔宇治拾遺物語〕
〔古今著聞集〕

三 随筆

徒然草 244
兼好
高名の本登りといひし男（第一〇九段） 246
仁和寺にある法師（第五二段） 247
助動詞「き」と「けり」 248
奥山に猫またといふものありて（第八九段） 250
花は盛りに（第一三七段） 251
係り結び 252
● 解釈のために③ 用言の活用 252

四 物語 1

平家物語 256
宇治川の先陣争い 262
● 解釈のために④ 助動詞のはたらき 264
● 古典の窓 武士と馬 264

五 和歌と俳諧

四季の歌 266
心の歌 270
● 解釈のために⑤ 和歌の修辞 274
奥の細道 276
松尾芭蕉
旅立ち 279
平泉 281
俳諧 281

六 物語 2

竹取物語 284
かぐや姫の昇天 288
伊勢物語 290
芥川（第六段） 291
さらぬ別れ（第八四段） 293
● 表現コラム 古典の世界を現代によみがえらせよう 293
● 解釈のために⑥ 敬語 293

古典の窓

古文の内容理解を深めるための豆知識をコラムにまとめました。

表現コラム

古文の学習を広げる言語活動を取り上げました。

一 古文入門……①中学校で学習した「竹取物語」「枕草子」「徒然草」「平家物語」などの冒頭文を音読、
二 説話……②「児のそら寝」Ⅱ全文傍訳Ⅲ「老僧の水練」Ⅱ部分傍訳
の三段階で、入門をより丁寧に。文法教材を高校生の実態に合わせて大幅改訂。

古典の一節を音読しよう

今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。野山に交じりて竹を取りつつ、
今となつては昔のことだが、竹取の翁という者がいた。 野山に分け入って 竹を取つては、

よろづのことに使ひけり。名をば、讃岐の造となむいひける。その竹の
さまざまなことに 使つていた。 名は、 讃岐の造といった。 (ある日)その竹の

中に、もと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて寄りて見るに、筒の
中に、 根もとが光る竹が 一本あった。 不思議に思つて 近寄つて見ると、 筒の

中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうて居たり。
中が光っている。 それ(筒の中)を見ると、 三寸くらいである人が、 たいそうかわいらしい様子で座っている。

(『竹取物語』)

いづれの御時にか、女御・更衣あまた候ひ給ひける中に、いとやむご
どの帝(みかど)の御代(みよ)であつたが、 女御や更衣が大勢お仕え申しあげていらつした中に、それほど
となき際にはあらぬが、 すぐれて時めき給ふありけり。 (源氏物語)
高貴な 身力ではないかたで、 とりわけ寵愛(ちようあい)を得ていらつしやるかたがいた。



土佐光吉筆「源氏物語絵色紙 若紫」(京都国立博物館蔵)



「竹取翁 井 かくや姫絵巻 若紫」(宮内庁書陵部蔵)

現代仮名遣いの振り仮名

現代と異なる歴史的仮名遣いには、
片仮名で現代仮名遣いの振り仮名を
振りました。

春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山際、少し明かりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。
春はあけぼの。 やうやう 白くなりゆく 山際、 少し 明かりて、 紫だちたる 雲の 細く たなびきたる。
春はあけぼの。 だんだんと 白んでゆく 山の 稜線(りようせん) ちょうど 辺りの 空が、 少し 明るくなって、 紫がかつた 雲が その 山の 辺りに 細く たなびいていて、 (の)は 趣(おもむき)がある。

(『枕草子』)

遊びをせむとや生まれけむ
遊びをせむとや生まれけむ

戯れせむとや生まれけむ
戯れせむとや生まれけむ

遊ぶ子どもの声聞けば
遊ぶ子どもの声聞けば

わが身
わが身

(『梁塵秘抄』)

図版・写真

読解に役立ち、イメージを広げる写
真・図版などを、適切に掲載。

行く川の流れば絶えずして、しかも、もとの水にあらず。淀みに浮かぶうたかたは、かつ消え、かつ結びて、
行く川の流れば絶えずして、 しかも、 もとの水にあらず。 淀みに浮かぶうたかたは、 かつ消え、 かつ結びて、
行く川の流れば絶えずして、 しかも、 もとの水ではない。 淀みに浮かぶ 水の泡は、 一方で消えると、 一方でできて、
久しくとどまりたる例なし。世の中にある、人と栖と、また、かくのごとし。
久しくとどまりたる例なし。 世の中にある、 人と 栖(すま)と、 また、 かくのごとし。
いつまでもそのままいるためにがない。 世の中に存在する、 人と 住居(すま)も、 また、 このようなものである。 (『方丈記』)

祇園精舎の鐘の声、
祇園精舎の鐘の聲、

諸行無常の響きあり。
諸行無常の響きあり。

娑羅双樹の花の色、
娑羅双樹の花の色は、盛者必衰という真理をはつきりと示している。権勢を誇っている人も、(その状態

は長続きしない。全く、(短い)春の夜の夢のようなものである。勢力の盛んな者も、しまいに滅んでしまつ。全く、
は長続きしない。 全く、 (短い)春の夜の夢のようなものである。 勢力の盛んな者も、 しまいに 滅んでしまつ。 全く、 風の前に舞う塵と同じである。 (『平家物語』)

傍訳

逐語訳を基本として、() 内に主
語などを補った全文傍訳。

つれづれなるままに、日暮らし、硯に向かひて、心に映りゆくよしなしごとを、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。
(我ながら)なんとも妙にもの狂おしい気持ちができることだ。
(『徒然草』)

この世の名残夜も名残、死にに行く身をたとふれば、あだしが原の道
この世の最後、夜も最後、死に行く身を例えてみると、あだしが原の道の

の霜、一足づつに消えてゆく、夢の夢こそあはれなれ。あれ数ふれば暁
霜が、一足踏むたびに消えてゆくようなもので、夢の中の夢のようにはかなくもの悲しい。ああ、数えると暁
の七つ(午前四時頃)を告げる鐘が六つ鳴って、残る一つが今生の、鐘の響きの聞き納め、寂
滅為楽と響くなり。
滅為楽(往生も近い)と響いてくる。
(『曾根崎心中』)



歌舞伎「曾根崎心中」

学習の手引き

- 1 小学校、中学校でどんな古典の作品を学んだか、発表しよう。
- 2 現代仮名遣いと発音が異なる部分を書き出してみよう。

解釈のために

1

古典の言葉

●歴史的仮名遣い

古典の文章は、平安時代の発音に基づいた歴史的仮名遣いで表記されている。そのため、「あたり」(230ページ4行)のような現代仮名遣いでは使われない仮名や、「使ひけり」(230ページ2行)のような現代の発音とは異なる表記が見られる。私たちが古典の文章を読むときには、次のような点に注意する必要がある。

- (1) 「ゐ・ゑ・を」は「イ・エ・オ」と読む。

例 みなか(イナカ) こゑ(コエ)
かをり(カオリ)

- (2) 語頭以外のハ行「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「ワ・イ・ウ・エ・オ」と読む。

例 あはれ(アワレ) 言ふ(イウ)
にほひ(ニオイ)

- (3) 助動詞「む」「らむ」「けむ」、助詞「なむ」などの「む」は「ン」と読む。

例 書かむ(カカン) ……となむ(トナン)

- (4) ①「ア段音＋う(au)」は「オー(ō)」

②「イ段音＋う(iu)」は「ユー(yū)」

③「エ段音＋う(eu)」は「ヨー(yō)」と読む。

例 ①申す＝まうす(mausu) → モース(mōsu)

②昼夜＝ちうや(tiyā) → チューヤ(tyūyā)

③今日＝けふ(kehu) → (keu) → キョー(kyō)

- (5) 促音、例えば「あつぱれ」は、「アツパレ」と読む。拗音、例えば「にや・にゆ・によ」は、「ニヤ・ニユ・ニョ」と読む。

ニョ」と読む。

例 七宝＝しつぼう(シッポウ)

女御＝にようご(ニョウゴ)

- (6) 「くわ・ぐわ」は「カ・ガ」と読む。

例 火事＝くわじ(カジ)

二月＝にぐわつ(ニガツ)

これらは原則であり、例外もある。例えば、「はは」(母

解釈のために

仮名遣い↓辞書の引き方↓現代語訳の仕方↓用言↓助動詞↓和歌の修辞↓敬語を、学習者の視点で解説。

二 説話

二つの説話を読み、当時の人々のものの感じ方、
考え方に思いをはせてみよう
説話は、神話・伝説・昔話などのような、古くか
ら伝承されてきた話の総称である。

単元扉

単元の学習目標と、学習する文種・作品
の解説を簡潔に示しました。

児のそら寝
老僧の水練

「ハハ」、「あふひ」（葵「アオイ」）などである。

昔の発音どおりに読むことは不可能であるから、規則に
こだわらずすぎるよりも、何度も音読をして慣れることが大
切である。

◎いろは歌と古典語の五十音図

いろは歌は、平安時代中期に書き分けられていた四十七
文字の仮名を、重複を避けて全て用いた七五調の歌である。

いろはにほへと ちりぬるを 色は匂へど 散りぬるを
わかよたれそ つねならむ わが世誰ぞ 常ならむ
うゐのおくやま けふこえて 有為の奥山 今日越えて
あさきゆめみし めひもせず 浅き夢見じ 酔ひもせず

五十音図は、仮名を、同じ母音をもつものを横に、同じ
子音をもつものを縦に並べた表である。横の並びを**段**とい
い、縦の並びを**行**という。古典語では、ヤ行・ワ行に現代
語との違いがある。

いろは歌にも古典語の五十音図にも、「ん」がない。現
代の「ん」にあたる音は、実際の発音では古くからあった

らしいが、表記の方法が確立されていなかったため、表記
を略したと考えられている。

古典語の五十音図

	ア行	イ段	ウ段	エ段	オ段
カ行	あ a	い i	う u	え e	お o
キ行	か ka	き ki	く ku	け ke	こ ko
サ行	さ sa	し si	す su	せ se	そ so
タ行	た ta	ち ti	つ tu	て te	と to
ナ行	な na	に ni	ぬ nu	ね ne	の no
ハ行	は ha	ひ hi	ふ hu	へ he	ほ ho
マ行	ま ma	み mi	む mu	め me	も mo
ヤ行	や ya	い (yi)	ゆ yu	え (ye)	よ yo
ラ行	ら ra	り ri	る ru		
ワ行	わ wa	ゐ wi (ち)	う u		

*アルファベットは、発音ではなく、五十音
また、ワ行の「ヰ」「ヱ」は片仮名であ

教材に直結した文法事項は、2本の
コラムで解説。
・助動詞「き」と「けり」
・係り結び
・「花は盛りに」

呪ちこのそら寝
 —————
 〔宇治拾遺物語〕
うぢしゆみ

●宇治拾遺物語 鎌倉時代初期の説話集。編者未詳。仏教的な説話や世俗的な説話など百九十七話が収められている。本文は、『新編日本古典文学全集』によった。

1 今いまは昔むかし、比叡ひゑの山やまに見みありけり。僧そうたち、宵よのつれづれに、＊「いぎ、か
 2 今いまでは昔むかしのことだが、比叡ひゑの山やまに見みがいた。
 3 いもちひせむ。」と言いひけるを、この児こ、心寄こころよせに聞ききけり。さりとて、
 ばた餅もちを作つくつて食くへよう。」と言いつたのを、
 出いださむを待まちちて寝ねざらむも、悪わるかりなむと思おもひて、片方かたかたに寄よりて、
 作しりあけるのを待まちつて、
 寝ねないのも、
 出いで来るを待まちちけるに、すでにし出いだしたるさまにて、
 4 寝ねているふりで、
 できあがるのを待まちつたところ、
 早くも作しりあげた様子ようすで、
 ひしめき合あひたり。
 集あまり騒さわぎ合あつてゐる。

この児、定めておどろかさむずらむと待ちゐるに、僧の、「もの申し⁵」
 この児が、きつと起てそつとするだらうと思つて待つてゐる。
 僧が、「もしもし」
 おどろかせ給へ。」と言ふを、うれしとは思へども、ただ一度に
 お起きくだない。」と言つのを、うれしいとは思つけれども、
 たつた一度で

* いらへむも、待ちけるかともぞ思ふとて、今一声呼ばれていらへむと、
 返事をするのも、待つていたのかと思うと思つて、もう一度呼ばれて返事をしよう、と、
 * 念じて寝たるほどに、「や、な⁷起こし奉りそ。⁸ 幼き人は、寝入り給ひにけ^{*}
 り。」と言ふ声のしければ、あなわびしと思ひて、今一度起こせかしと思⁹
 なつた。」と言つ声かしたので、

ひ寝に聞けば、ひしひしと、ただ食ひに食ふ音のしければ、すべなくて、
なから寝ていて聞くと、むしゃむしゃと、ただもう盛んに食べる音がしたので、しかたがなくて、
むごのち無期の後に、「えい。」といらへたりければ、僧たち笑ふこと限りなし。
長い時間の後に、「はい。」と返事をしたので、僧たちが笑つてはこのうえない。

学習の手引き

- ① 原文を繰り返し音読して、古文の口調に慣れよう。
- ② 「児」が心の中で思った内容が書かれている部分を全て抜き出して、その心情の変化をたどってみよう。
- ③ 僧たちには、「児」が「そら寝」をしていることがいつわかったと考えられるか。いろいろな可能性を考えて、この話のおもしろさを読み味わってみよう。

脚注語句（入門単元）

4 ひしめき合ひたり 「合ひ（合ふ）」
は、みんなですするの意。

5 もの申し候はむ 相手に丁寧呼び
かけるときにいう言葉。

6 待ちけるかともぞ思ふ 「もぞ」は、
危惧の念を表す表現。

脚注語句（入門以降）

辞書を引かずに学習できるように、
難しい部分は直訳を掲載。

8 な起こし奉りそ 「なりそ」は、や
わらかい禁止の気持ちを表す表現。
9 起こせかし 「かし」は、文末につ
き、念を押す表現。
10 食ひに食ふ 同じ動詞を重ねて、意
味を強める表現。
* つれづれ・いぎ・悪かり（悪し）・
おどろかき（おどろかす）・申し
（申す）・候は（候ふ）・おどろか（お
どろく）・給へ（給ふ）・いらへ（い
らふ）・念じ（念ず）・奉り（奉る）・
あな・わびし

学習の手引き

「現代文」と同様に、解法のヒントを示しました。

ヒント① 現代と読み方の違う仮名遣いを見つけておこう。

ヒント②引用の「と」に注目しよう。

漢文編

一 漢文入門

訓読の基礎
名言

●漢文コラム 漢字の音と訓

二 故事

助長

虎の威を借る狐

蛇足

●漢文コラム 再読文字

三 史伝

管鮑の交わり

晏子の御者

死せる孔明生ける仲達を走らす

四 唐詩

春曉

登鸛鵲樓

江雪

涼州詞

送元二使安西

早發白帝城

李白

王維

王翰

柳宗元

王之渙

孟浩然

〔十八史略〕

〔史記〕

〔十八史略〕

〔戦国策〕

〔孟子〕

296 300 302

五 思想

春望

香炉峰下新卜山居草堂初成偶題東壁

●漢文コラム 唐詩について

論語

老子と莊子

大道廃れて、仁義有り

胡蝶の夢

知っていること、知らないこと

杜甫

白居易

〔老子〕

〔莊子〕

中野孝次

325 326 328 330 334 335 336

付録

付録

学習の確実な定着
や、理解を深めるた
めの資料を豊富にそ
ろえています。



現代文領域全体と関連する、論語に
ついての中野孝次の評論。

古典文法要覧	342
重要古語一覧	350
時刻と方位・月の異名	353
月齢表	354
故事成語	355
漢文基本句型の整理	357
古典文学史年表	361
近現代文学史年表	366
常用漢字表	372

日本の色	巻末①
室内調度図	巻末②
服飾図	巻末③
平安京復元模型	巻末⑤
京都付近略図	巻末⑦
旧国名地図	巻末⑧
漢文参考地図	巻末⑨

訓読の基礎

●訓読とは

日本人は、中国の文章である漢文を、原文の形を残したまま、日本語として翻訳しながら読む方法を考え出した。これを**訓読**という。

例えば、**A**のような文がある。漢字以外何も書かれていないのでこれを**白文**という。この文を「寧ろ鶏口と為るとも、牛後と為る無かれ。」と日本語として読むために、「レ」や「一・二」など読む順番を示す符号である**返り点**、片仮名の**送り仮名**、「。」といった**句読点**をつけたものが**B**である。また、**C**のように**返り点**・**送り仮名**・**句読点**（これらをまとめて**訓点**という）に従って漢字仮名交じり文に書き改めたものを書き下し文という。

A 寧ろ鶏口無為牛後

白文

B 寧ろ為鶏口無為牛後

訓点を施した文

訓点

C 寧ろ鶏口と為るとも、牛後と為る無かれ。

書き下し文

●返り点

(1) **レ点** すぐ下の一字から返って読むための符号。

読書。

書を読む。

不好学。

学を好まず。

(2) **一・二点** 二字以上を隔てた文字に返って読むための符号。

借虎威。

虎の威を借る。

懸羊頭売狗肉。

羊頭を懸けて狗肉を売る。

(3) **上・中・下点** 一・二点をつけた句を挟んで、更に上に返って読むための符号。

有能為狗盜者。

能く狗盗を為す者有り。

5

1 寧ろ どちらかといえばこのほうが望ましい。

2 鶏口 鶏のくちばし。

3 牛後 牛の尻。

4 無かれ としてはいけない。

より見やすく

記号や符号を用いて、よりわかりやすい紙面に。

練習

学習を振り返り、知識の習得を進めるための問題を設けました。

欲^⑦上^③青^①天^②覽^⑥日^④月^⑤

青天に上りて日月を覽んと欲す。

(4) その他

① ㄮ・ㄗ点 レ点で読み上がった文字から離れた文字に返って読むための符号。
從^④心^①所^③欲^②

心の欲する所に従ふ。

勿^⑥以^③惡^①小^②為^⑤之^④

惡の小なるを以て之を為すこと勿かれ。

② 一 点 二字の熟語に返って読むための符号。

平^③定^④海^①内^②

海内を平定す。

2 海内 天下。

●書き下し文

(1) 送り仮名の片仮名は平仮名に直す。 ※歴史的仮名遣いのままで書く。

有^レ備^ヘ無^レ患^ニ

備へ有れば患ひ無し。

(2) 日本語の助動詞や助詞にあたる漢字は平仮名に直す。

誠^ハ者^ニ天^ノ之^ヲ道^{ナリ}也[。]

誠は天の道なり。

(3) 訓読の際に読まない字（置き字）は書かない。

朝^{あしたニ}三^{ニシテ}而^ニ暮^{レニ}四^{ニス}

朝に三にして暮れに四にす。

※置き字 訓読の際、その文字のはたらきが送り仮名によって表されたり、その文字に相当する訓がなかったりするために読まない文字。

練習

一 読む順に従って番号をつけよう。

(1) 少年^ニ易^{ヤス}老^イ学^ニ難^シ成^リ

(2) 不^ニ患^ヘ人^ノ之^ヲ不^ニ己^ル知^ヲ

二 漢文を次の順序で読む場合の「ア」「イ」にあてはまる返り点を答えよう。

(1) 1 4 2 3 2
2 1 4 ア 2 3 イ

三 置き字に○をつけ、書き下し文にする際、平仮名にする漢字には△をつけてみよう。
(1) 青^ハ取^ル之^ヲ於^ニ藍^{ヨリ} (2) 病^ハ從^レ口^{イリ}入^リ禍^{わざはひ}從^レ口^{イリ}出^ヅ

(3) 千里^ニ之^ノ行^モ始^{マル}於^ニ足^マ下^{ヨリ}

漢字		読み方	
不	ず		
見・被	る・らる		
可	ベシ		
如・若	ごとシ		
也	なり		
為	たり		
使・教・令・遣	しム		
之	の		
自・從	より		
与	と・より・か		
者	は		
也・邪・耶	や・か		
耳・已・爾	のみ		
矣	かな		
乎・哉・夫	かな・や・か		
助詞		助動詞	

書き下し文にする際、平仮名にする主な漢字

学習の要点・留意点を一覧表に。

学習者の視点から、解説の仕方を大きく改めました。

古典の作品世界をより深く理解するために参考となる資料を、写真や図版を中心に充実して掲載しています。

日本の色

青 あお	薄（浅）紅梅 うすはな	紅梅 こうばい	紅梅 こうばい	鈍色 にび
青丹 あおに	薄鈍色 うすはな	紅梅 こうばい	紅梅 こうばい	縹 はなだ
茜 あかね	葡萄染 えびぞめ	紫苑 しおん	紫苑 しおん	秘色 ひそく
浅葱色 あさぎ	唐（韓）紅 からくれなゐ	蘇芳 すおう	蘇芳 すおう	檜皮 ひわだ
浅（薄）縹 うすはなだ	麴塵 きくじん	丁香色 ちやうし	丁香色 ちやうし	二藍 ふたあい
浅緑 あさぎ	梔子（支子） くちなし	橡 つらばみ	橡 つらばみ	紫 むらさき
今様色 いまよう	朽葉 くちは	鳥の子 とりこ	鳥の子 とりこ	萌黄色 もえぎ
薄色 うす	胡桃色 くるみ	丹色 に	丹色 に	山吹 やまぶき

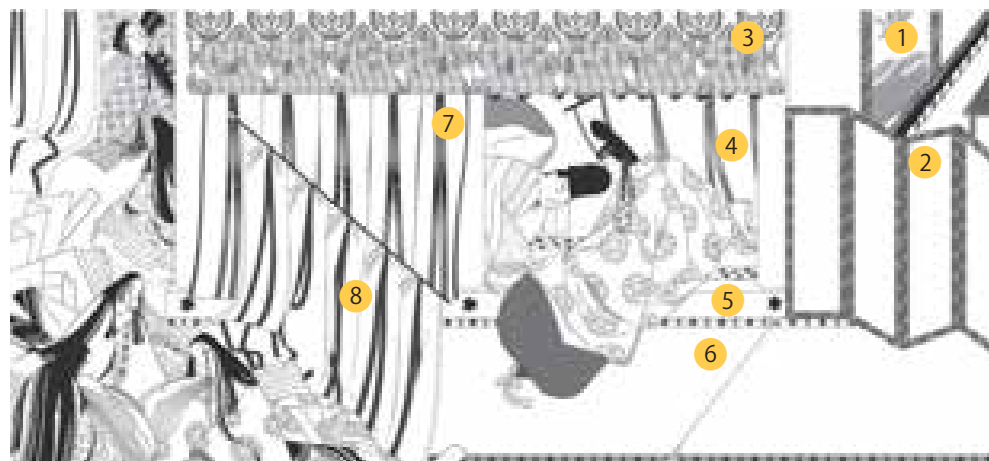
室内調度図



「源氏物語絵巻 柏木（二）」（徳川美術館蔵）

- 1 障子
2 屏風
3 御簾
4 几帳
5 下長押
6 畳
7 壁代
8 几帳

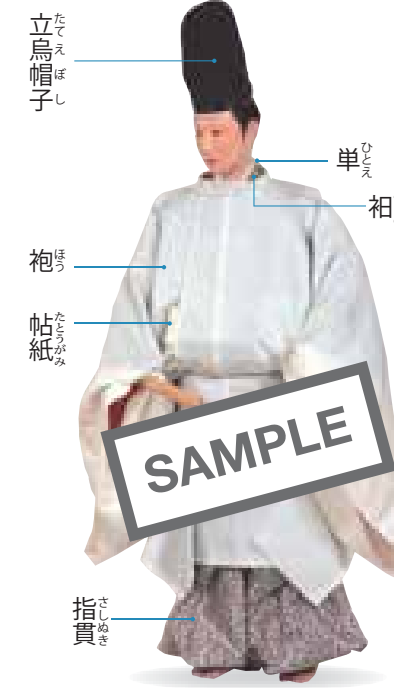
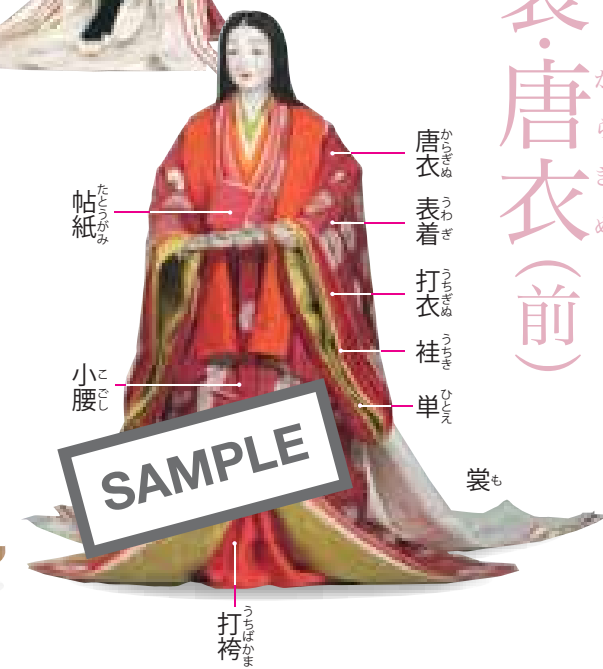
上の図は、国宝源氏物語絵巻で、夕霧が病床の柏木を見舞った場面を描いたものである。
画面の中央に、母屋の中で、烏帽子をかぶった柏木が、静かに目を閉じて横になっている。その枕もとで、下長押に腰を下ろして、廂の間から、冠直衣姿の夕霧が見下ろしている。二人の頭の上には、御簾が巻き上げられ、左半分には壁代が立てられている。母屋と東の廂の間は、大和絵の襖障子で仕切られている。
画面の左の几帳の奥や西の廂の間には、侍女たちがすわっている。看病をしていた侍女たちであろう。



②

①

図版を掲載するだけでなく、コラムとともに掲載しました。

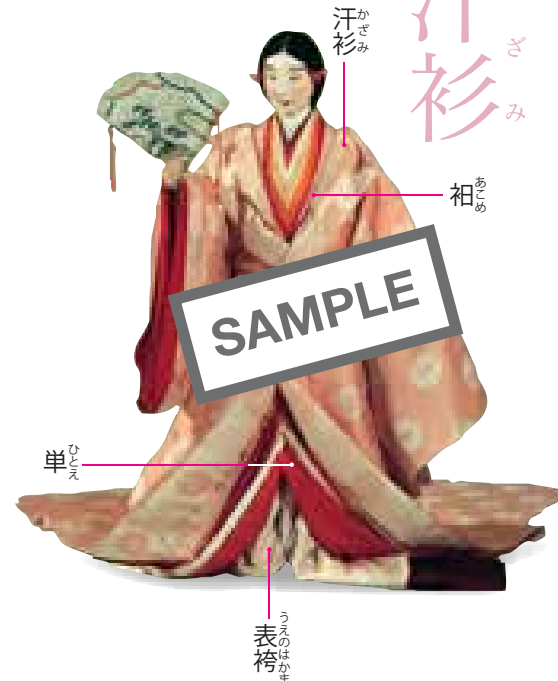
束帯そくたい直衣のうし裳・唐衣からぎぬ（後）裳・唐衣もからぎぬ（前）桂うちき狩衣かりぎぬ

平安時代の装束

平安時代の男性官人の正装は束帯で、参内する時や儀式などの際に着用した。袍という表着を着て、大口袴と表袴を穿き、石帯を締めた。袍の内側には裾を長く引いた下襲を着て、冠をかぶり、手には笏を持つ。袍は位階によってその色が決まっていた、位袍ともいった。

ぶつた。直衣は、位階による色の定めがなかったため、雑袍ともいった。狩衣は、もとは狩りの際に着た衣だったが、活動的なために、従者たちが日常的に着た。また、男性官人たちは、旅に行く時やお忍びの外出などの際に着た。

女性の平常服は桂で、単の上に何枚も重ねて着て、その配色の美しさを楽しむ場合もあった。多く、砦で

汗衫かざみ

打って光沢を出した紅の打袴を穿き、表着を着た。

女性が貴人の前に出る時には、更に上に唐衣を着て、腰から下に裳をつけて背面を覆った。これが、女性の正装である。

童女の正装の表着は汗衫で、更に上に着て、表袴を穿いた。

三 評論 1
彼らがそれを学ばなければ
ならない理由

内田 樹

教材のねらい

本教材は「国語総合」における現代文の最初の教材となる。中学校で学んできた読解の基礎を確認しながら、高校生として、さらに一歩進んだ読解力を付けていくのに格好の教材である。

内田樹は、難しいことを易しく言う。彼の論理は明快だ。だから、易しい言葉を使いながら、たいへん高度な内容のことを語れるのだ。一般的に疑ったこともない常識とされていることが、いつのまにか彼の論理でひっくり返されているという経験を読者はする。

内田は、ラカンの言葉が難しいのは「わかりやすく書く」とありがたみがなくなるから（『先生はえらい』二〇〇五）だと述べている。それはある種の「誤解の幅」が「訂正への道」を開いておいてくれるからだと言う。しかし、ずるい大人は、とすると易しいことを難しく言うことで人々を惑わし、意図的に自分への非難をかわそうとする。論理があいまいで不十分なところを、難しい言葉で権威付けて、無理矢理、反論を封じ込めようと強弁するのである。

そこで、この人は何を言おうとしているのかということ（意見）と、どういう論拠でそのことを主張しているのかということ（理由）をしっかりと意識して、その人の言うことを理解することが必要になってくるのだ。この単元では、この読解方法を生徒の身につけさせたい。さて、その論理を読み解き、考え方を身につけようとする際、一般的によくいわれている通りの話だと、どうしても先入観で読めてしまう。したがって、自分で一つずつ考えながら読むことができない。しかし、その点、内田の論は、世間的な常識をうまく裏切ってくれている。一から自分で考えていかなければ読み解けない。いつでもどこでも学べるという教育サービス「ユビキタス」の教育は、情報化社会といわれる現代において理想として目指されるべき教育であるように思われる。実際に、それを目指して教育システムの改革を行っている大学も少なくない。しかし、そこに隠されている大きな問題を内田は指摘する。それは「教育とは何か」という本質について考えることにもつながってくるのである。

学習指導目標

- ① 情報化社会という文脈でよく使われる用語について理解させる。
- ② 学生が学びたいと考えるものを学びやすくしているシステムを筆者が否定するのはなぜかについて整理させる。
- ③ 筆者の文がどう論理的に展開しているか確認し、筆者の意見主張の仕方の特徴を捉えさせる。

授業展開例

時	学習の目標	導入	学習活動	指導上の留意点・観点別評価の規準と方法
1	① 論理的文章の読み方を理解する。 ② 全文を通読し、構成と概要を把握する。	1 本単元が、意見と根拠を確認することで、論理的文章を読解するという練習になっていることを確認する。 2 構成を確認する。（構成）参照） 教育のユビキタス化の功罪、反対する根拠（教育の本質、全体のまとめという形で三つの段落に分けられることを理解する。	1 具体的な例を挙げながら、感想（主観的主張）と論（客観的主張）との違いを認識させたい。 2 余裕があれば、情報化社会の文脈でよく出ている言葉を解説しながら、句点ごとに区切って生徒に音読させ、最後に視点を示して段落分けさせるというのが望ましい。時間がなければ、最初に三段落に区切って範読してもよい。	◇ 関 意欲的に評論文の読解に取り組んでいる。（発言・ノート）

授業の流れを簡潔に表組みで掲載。

要旨

■ ユビキタス化すると時間と空間の制約を気にせず教育を受けることができる。ただしそのためには教育のカタログ化が必要になってくる。教育のカタログ化は学ぶ者の目的に沿った学習を可能にするすばらしいことだといわれる。しかし、そこには大きな問題がある。なぜなら、それを学ぶことの有用性や価値について語る言葉をまだ持っていないことが学ぶことの理由だからだ。ユビキタスの視点に

立つことは教育の本質に悖る行為だ。（百九十七字）
■ 教育のカタログ化は学ぶ者の目的に沿った学習を可能にするすばらしいことだといわれるが、それは問題だ。なぜなら、それを学ぶことの有用性や価値について語る言葉をまだ持っていないことが学ぶことの理由だからだ。（九十九字）
■ 教育のカタログ化は教育の本質に悖る無知を助長する行為である。（三十字）

（三十字）

なども、その例であるといえよう。

1 ネットワーク「network」。直訳すれば「網状組織」ということだが、たいていの場合、情報通信網、特にインターネットなどを介した「コンピュータ・ネットワーク」の略で使うことが多い。ここでも、その意味で使われている。

3 ネット インターネットのこと。

3 アクセス「access」。本来は「近づくこと、あるいは、その方法」を表す。転じて、「交通手段」や「コンピュータなどで情報のやりとりをする」となどを指すようになった。ここでは、後者の意味で使われている。

4 空間的隔絶「隔絶」は「ひどく離れていること」。多くの大学が集まる都市部から離れた場所に暮らしていること。そういう遠隔地からでもインターネットを利用した通信教育なら受講することができる。予備校などに関しても地方などで講師の派遣が困難な地域には「サテライト授業」などと称してビデオで講座を流したりしている。

上段に発問とその解答例・解説を、下段に語釈・補足を掲載。

要旨・大意は、ワープロデータを収載。要旨は、二百字・百字・三十字の三種。

教授資料
「朱書編」

図 学校から遠いところにあるということ。 □ (～p66 ㉔6)

彼らがそれを学ばなければ
ならない理由

うちだ たつる
内田 樹

■教育のカタログ化は学ぶ者の目的に沿った学習を可能にするすばらしいことだと思われるが、それは問題だ。なぜなら、それを学ぶことの有用性や価値について語る言葉をまだ持っていないことが学ぶことの理由だからだ。(九十九字)

■教育のカタログ化は教育の本質に悖る無知を助長する行為である。

「ユビキタス」¹と呼ばれる教育理念がある。パソコンとネットワーク²を使って行う教育のことである。

どのような遠隔地からもネットさえつながっていれば教育機会にアクセス^{*}することができる。空間的隔絶³を勘定に入れなくてよいということは学ぶ側には計り^{はか}れないメリット^{*}をもたらすだろう。
ひびく離れていること

また、ネット上に教材を置いておけば、学生が好きな時、好きな場所で自習したり教員とやりとりすることができる。同一時間に同一場所で出会わなければ授業が成り立たないという「時間の制約」からも解放される。

ユビキタスなら時空を自在に行き来して、あらゆる教育情報に主体的にアクセスできる。いいことづくめのようにであるが、サイバー・スペースをキャンパスとする

10

5

「朱書編」では、カラーユニバーサルデザインに配慮して、解説部分を青色で表示。

1 ユビキタス ubiquitous
「遍在する」という意のラテン語からきた英語。いつでもどこでもさまざまなサービスを利用できる環境を実現しようとすること。

一九五〇（昭和25）―思想家。武道家。東京郡に生まれた。フランス現代思想の研究をはじめ、教育論、武道論など幅広く活動している。著書に『下流志向』『日本辺境論』『武道的思考』など。本文は『昭和のエートス』（二〇〇八年刊）によった。

□ 教育の「ユビキタス」化の功罪
ユビキタス ⇄ 空間的隔絶
= 時間的制約
(時空を自在に行き来)

- ① 漢字に振り仮名をつける。
- ② 語句の意味を調べる。
- ③ 三つの段落に分ける。

三 徒然草

学習目標

- 「徒然草」の文章について、そこに描かれた情景を表現に即して読み味わう。
- 文章の構成や展開を確かめながら読み、作者のものの見方や考え方を把握する。

【学習の流れ】

- ① 中世の随筆文学にふれ、当時のものの考え方や価値観を学ぶ。
- ② 作者の人間観察の深さや鋭さを読み取る。
- ③ 古文読解に必要な基本単語や文法を身につける。

授業展開例(3時間)

時	学習の目標	学習活動
1	①「徒然草」について知っていることを発表する。 ② 兼好が、取り上げた人々のどのような考えを饒れたものとして評価したのかを	導入 1 「徒然草」について知っていることを発表する。 2 音読を繰り返して、法すべき語句を指摘する。
2	① 中世の随筆文学にふれ、当時のものの考え方や価値観を学ぶ。 ② 作者の人間観察の深さや鋭さを読み取る。 ③ 古文読解に必要な基本単語や文法を身につける。	1 中学校の教科書に取り上げられている作品の内容を思い出して、簡単に説明させる。 2 句読点ごとに区切り、5 W 1 H をあてはめさせる。 2 読み慣れたら、地の文、会話文で読み手を分けて読ませる。 ◇ 閑 随筆というジャンルの特質を理解したうえで、作者のものの考え方を理解しようとしている。(発言・ノート・演習・思考など)

構成

段落	ページ・行	段意
第一段落	初め～四五・五(仕まつることに候ふ)と言ふ)	●木登りの注意 名人が、木に登らせた男に対して、飛び下りられるくらいの高さになってから注意した。
第二段落	二四五・六 あやしき下賜	●すべてに通じる教え 失敗は油断したとき起こるという教えは、すべてに通じる。

品詞分解と現代語訳

① 高名^{たかみな}の^の木登り^{きのぼり}と^といひ^{いひ}し^し男^{おとこ}人^{ひと}を^を説^{はな}いて^て、
高き^{たかき}木^きに^に登^{のぼ}せて^て、^を切^きら^らせ^せし^し男^{おとこ}人^{ひと}に^に、^いい^いと^と
危^{あや}ふ^ふく^く見^みえ^えし^しほ^ほは^は言^いふ^ふこ^こも^も言^いふ^ふこ^こも^も下^{くだ}る^るる^る
下^{くだ}る^るる^る上^うへ^へに^に上^{のぼ}る^る

② 世間の人が、名高い木登りと
言った男が、人を指図して、高い木
に登らせて、梢を切らせた時、高い木
とても危険はええな男は言ひこ
ないのに、下りる時に、家の軒く

品詞分解や書き下し文と現代語訳を見やすく上下段に対応して提示。

四 唐詩

学習目標

- 漢詩(近体詩)の基本的な形式を学ぶ。
- 漢詩の表現の特色を学び、漢詩に対する理解を深める。
- それぞれの漢詩に詠まれている情景と心情を理解し味わう。
- 漢詩からうかがえるものの見方や考え方を読み取る。

【学習の流れ】

- ① 漢詩のきまりについて確認する。
- ② 各詩について理解を深める。
- ③ 繰り返し朗読し、詩を暗唱する。

授業展開例(4時間)

時	学習の目標	学習活動
1	① 漢詩の基本知識を理解する。 漢詩の興味を喚起する。	導入 1 漢詩のきまりについて確認する。 教科書三八ページの「漢文コラム③ 漢詩のきまり」を読み、絶句や律詩の詩型について理解する。
2	① 漢詩のきまりについて確認する。 ② 詩型・押韻・対句の確認をする。	展開 ● 全詩共通 ① 龍説を聴く、または音読する。 ② 詩型・押韻・対句の確認をする。
3	① 漢詩のきまりについて確認する。 ② 各詩について理解を深める。	指導上の留意点・観点別評価の規準と方法 1 中学校の時の既習の教材等、学習状況を調べる。 2 詩型・押韻・対句について理解させる。 3 五言詩は、切れ目が「○○+○○」となり、七言詩は「○○+○○+○○」となることに注意させる。 ◇ 知 漢詩のきまりについて理解している。(発言・小テスト・思考)

主題

詩型・語彙

● 龍説：唐・新入(上平声)「長龍」
● 龍説：七言絶句。

書き下し文と現代語訳

元二の安西に使者して赴くを見送る 王維
渭城の朝雨輕塵を過し 客舍青青柳色新たり 君に勧む更に尽くせ一杯の酒 西のかた陽關を出づれば故人無からん

元二が安西に使者として赴くの見送る
渭城に降った朝の雨は、軽く舞い上がり土塵をしとり湿らせ、
旅館あたりの柳の色が、雨に洗われて、あおおとして鮮やかである。
さあ君よ、もう一杯飲み尽くしまえ。
(これから) 西の方にある陽關を出てしまえば、もう(う)して杯を交わすうな古
くからの友人もいないだろうが。

- ① 歴史的仮名遣いに注意しながら音読する。
② 主語を確認する。
③ 「高名の木登りといひし男」の発言のどこに兼好は感心したのか考える。

徒然草

兼好

高名の木登りといひし男

問 『徒然草』が書かれた時代はいつか。
答 鎌倉時代末期（鎌倉幕府滅亡は、一一三三年）
問 4行め「言ふ」の主語は誰か。
答 高名の木登りといひし男

高名の木登りといひし男、人を
掟てて、高き木に登せて、梢を切
らせしに、いと危ふく見えしほど
は言ふこともなくて、下るる時に、
軒丈ばかりになりて、
「過ちすな。心して下りよ。」
と言葉をかけ侍りしを、

（世間の人）が、名高い木登りと言った男が、人を
指図して、高い木に登らせて、梢を切らせた時に、
とても危険に見えた間は言うこともないのに、下
りる時に、家の軒ぐらゐの高さになって、「けがを
するな。注意しながら下りろ。」と言葉をかけまし
たところ。

- 1 高名の 名高い。有名な。
2 掟てて 指し図して。
3 軒丈 家の軒ぐらゐの高さ。
4 過ち けが。
5 言葉をかけ侍りしを 言葉をかけま
したところ。
6 かばかりに これくらい（の高さ）
に。

- ① 範読（音声CDの朗読・詩吟・中国語音読など）
を聞く。
② 書き下し文をノートに書く。

③ 巻末の「漢文参考地図」で、安西・渭城・陽
関の位置を確認する。……手引き1 安西は北
西、渭城は左下「西安・洛陽付近図」内、陽関

は安西の東南にある。

④ 旅立つ友人に対する作者の思いを理解する。

送元二使安西
渭城朝雨浥輕塵
客舍青青柳色新
勸君更盡一杯酒

西出陽關無故人
（三體詩）

問 この詩は、いつ、どこで詠まれたものか。
答 送別の宴会をした翌朝、渭城にある旅館で詠まれた。
問 柳の葉の色
手引き1 ③参照
手引き2

答 友との別れを惜しむ気持ちと、友人の孤独な旅を思いやる気持ち

学習の手引き

- ③参照
1 安西・渭城・陽関の位置を、地図で確かめよう。
2 第三句・第四句には、作者のどのような気持ちがかめられているか。
④友との別れを。

■徒然草 鎌倉時代の随筆。作者は、
兼好。序段以下、二百四十三段から
成る。本文は、『新編日本古典文学
全集』によった。

●兼好 歌人・随筆作者。俗名は、ト
部兼好。三十歳頃出家した。
（二二三？―一二三三？）

- 1 元二 「元」は姓、「二」は排行。排行
は、一族の同世代の男子の出生順位。
2 安西 現在の新疆ウイグル自治区庫
車県。唐代に西域の治安をつかさど
る役所（都護府）が置かれた。
3 渭城 唐の都長安（現在の陝西省西
安市）の北西、渭水（現在の渭河）
の北岸の町。当時西域に行く人をこ
こで見送った。

- 4 浥輕塵 軽い土ぼこりをしつとりと
湿らす。
5 客舎 旅館。
6 柳色新 柳の葉が雨に洗われて、鮮
やかだ。中国では、送別の際、柳の
枝を折って、旅人の無事を祈る習慣
があった。

- 7 陽関 関所の名。甘肅省敦煌市の南
西にあった。
8 故人 古くからの友人。

ヒント1 巻末の地図を利用する。
ヒント2 特に、第四句に着目する。

教授資料
「CD・ROM」
収録内容紹介

教材の原文・評価問題はもちろん、学習課題ノート、主題・要旨、発問例、さらには漢字・敬語の確認テストなど、
たくさんのワークシートをデータ化しました。

現代文編

学習課題ノート（PDF）

主題・要旨（ワード・一太郎・テキスト）

原文（ワード・一太郎・テキスト）

発問例（ワード・一太郎・テキスト）

小テスト（ワード・一太郎・PDF）

評価問題 標準・発展（ワード・一太郎）

古文編

学習課題ノート（PDF）

原文（ワード・一太郎・テキスト）

発問例（ワード・一太郎・テキスト）

品詞分解・現代語訳（ワード・一太郎）

小テスト（ワード・一太郎）

評価問題 標準・発展（ワード・一太郎）

文法小テスト（ワード・一太郎・テキスト）

漢文編

学習課題ノート（PDF）

原文（ワード・一太郎・漢文工房データ）

発問例（ワード・一太郎・テキスト）

白文（ワード・一太郎・テキスト）

書き下し文（ワード・一太郎・テキスト）

現代語訳（ワード・一太郎・テキスト）

小テスト（ワード・一太郎）

評価問題 標準・発展（ワード・一太郎）

付録

漢文参考地図（PDF・JPG）

教科書付録データ（ワード・一太郎）

古典文学資料集（ワード・一太郎）

古文元号対照表（ワード・一太郎）

古文の基礎小テスト（PDF）

漢字実力テスト（ワード・一太郎・PDF）

漢字頻出テスト（ワード・一太郎・PDF）

ワークシート（ワード・一太郎）

封筒

便箋

はがき

一筆箋

原稿用紙（百字・二百字・四百字・六百字）

俳句・短歌用短冊

履歴書

手紙を書く（基礎知識）

敬語確認問題

評価問題

小テスト・標準問題（選択式）・発展問題（記述式を含む）の三種類を準備しました。

発問例

教授資料「本冊」の発問例をワークプロデータにしました。

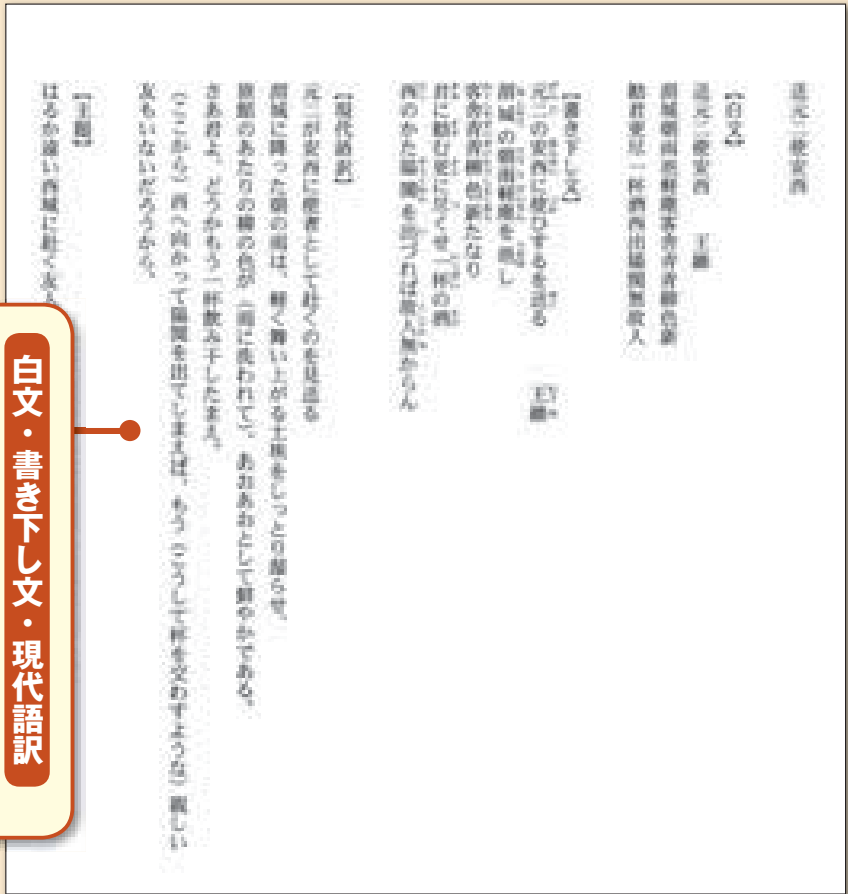
現代文編

古文編

漢文編

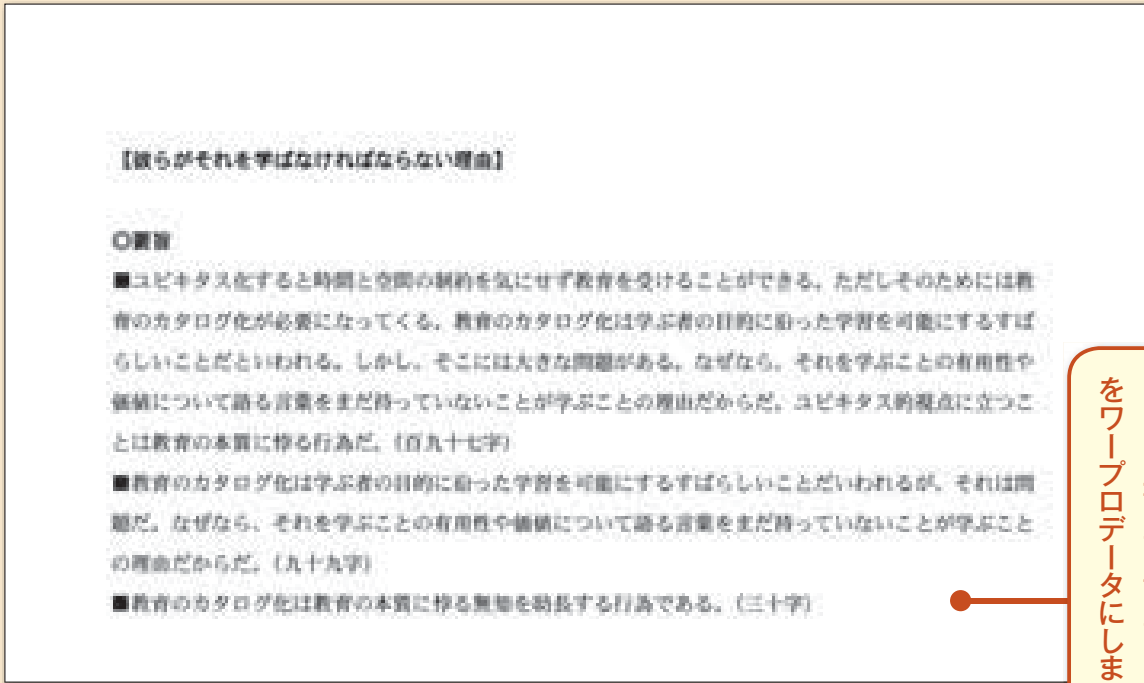
口絵・付録

教材品・
教授資料



白文・書き下し文・現代語訳

漢文編の白文・書き下し文（歴史的仮名遣いの総ルビ）・現代語訳も、ワープロデータにしました。



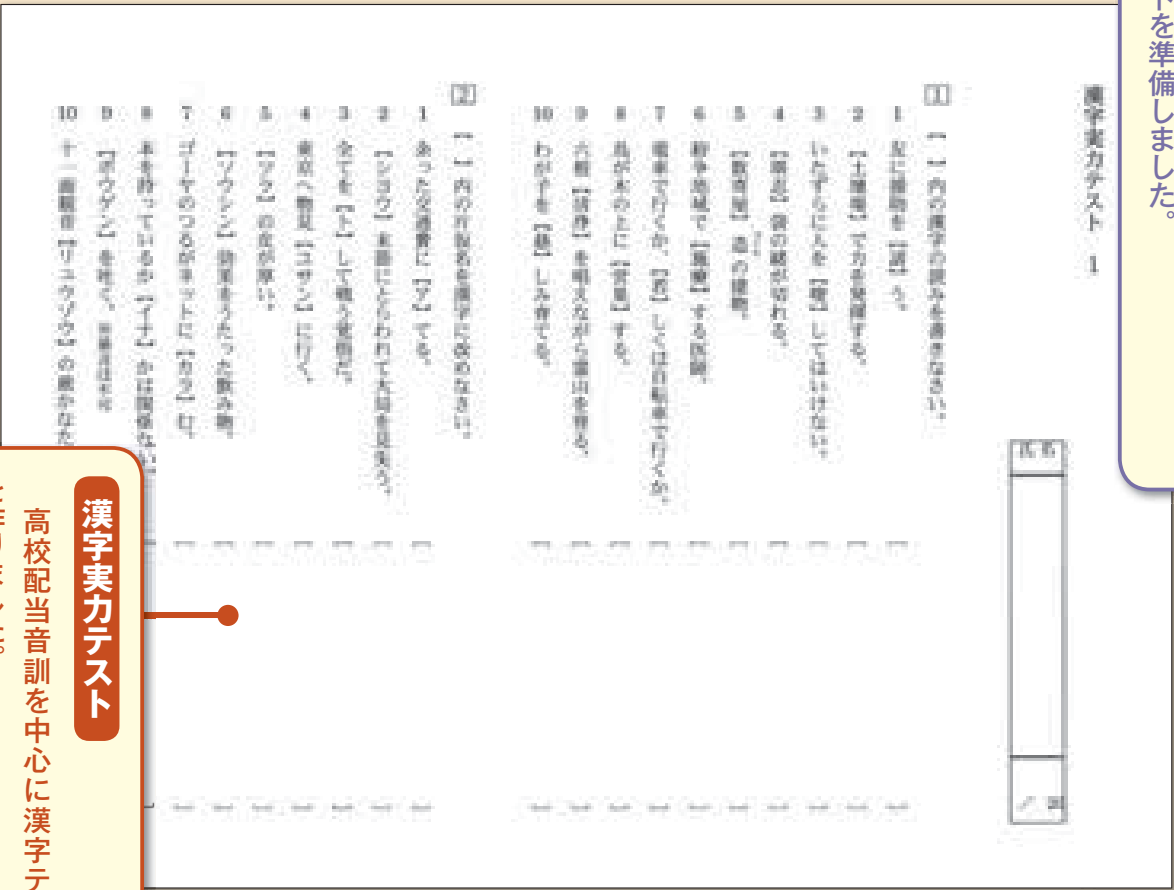
主題・要旨

教授資料「本冊」の主題・要旨（要旨は、二百字・百字・三十字の三種）をワープロデータにしました。



品詞分解と現代語訳

古文編の品詞分解と現代語訳を、文番号を付して、ワープロデータにしました。



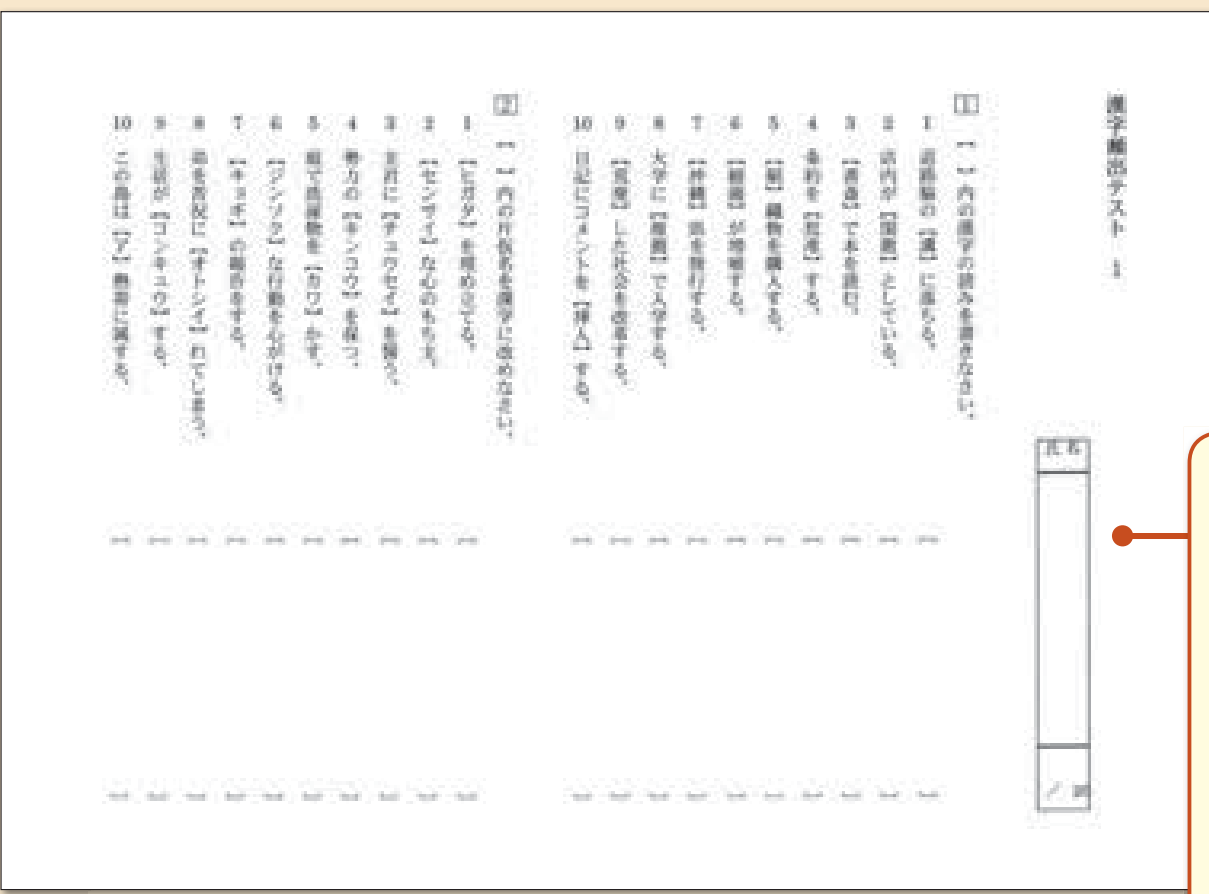
漢字実力テスト

高校配当音訓を中心に漢字テストを作りました。

各種ワークシート

授業に役立つたくさんのワークシートを準備しました。

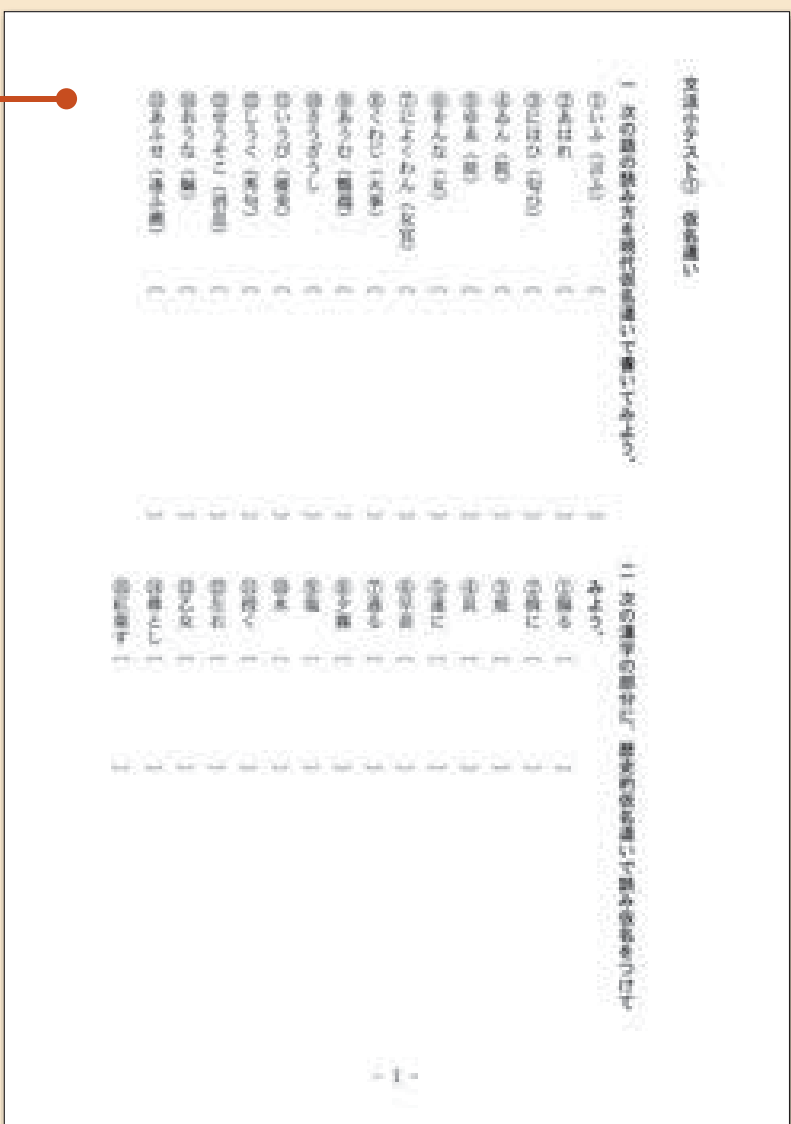
漢字頻出テスト
入試問題に多く出題されるもので
漢字テストを作りました。



敬語確認問題
実生活や面接などの際に役立つ、敬
語のテストを作りました。



文法小テスト
古文の学習に役立つ、学習内容ごと
の小テストです。教科書「解釈のため
に」に対応しています。



表現ワークシート
手紙や履歴書、さまざまなワーク
シートを準備しました。便箋や一筆箋、
原稿用紙のデータも準備しました。



現代文編

古文編

漢文編

口絵・付録

教材品・
教授資料

項目	観点	特色等
1 内容の選択	学習指導要領，教科の目標を達成するために必要な教材	●教育基本法・学習指導要領の目標を押さえ，学習指導要領に示された学習項目を網羅し，偏りなく構成されている。 ●現代文編，表現編，古文編，漢文編に分かれており，いずれの領域も「国語総合」の学習事項を獲得するために十分な教材数である。
2 内容の程度	基礎的・基本的事項の理解や習得のための配慮	●文・語句レベルの設問が脚注に，より深い作品理解のための設問が手引きにおかれている。 ●古典領域においては，文法・句型についてコラムとして教材化されている。
3 内容の組織・配列・分量	学習指導を有効に進めるための組織・配列・分量	●現代文領域では，評論は3単元7教材。文化論から科学論まで，多岐にわたるテーマが取り上げられている。今日的な問題提起に富み，論理構造の明快な評論作品を通して論理的な読解力と思考力を育成することが期待できる。小説は3単元7教材。古典的な作品から現代を代表する作家・作品まで，バラエティに富んだ構成である。随筆は1単元2教材。教科書冒頭に置かれ，高校生として新しい生活が始まった生徒たちにふさわしい内容である。いずれも，学習目標が初めに掲げられ，手引きはその目標を達成するためのワークとして構成されている。何をどのように学習するのかが，学習者にわかりやすい構成である。また，すべての単元に「ズームアップ」が付されており，応用・発展的な学習も可能である。表現編は6教材，見開きを基本にした構成で，他教科の学習の際にも活用できるよう工夫されている。 ●古文領域では，中学校での古典学習を押さえ，さらに高校生の興味をひく章段を厳選した，古文学習に慣れ親しむ態度を養う構成である。説話・随筆・物語・和歌・俳諧が採録しており，幅広い時代・文種の豊富な教材にふれることができる。文法学習のための「解釈のために」が段階的に設置しており，生徒の自学自習にも役立つよう配慮されている。 ●漢文領域では，基礎的な訓読知識を身につける入門単元は「訓読の基礎」「名言」に分けられており，ゆったりと構成されている。入門以外の単元では，故事・史伝・唐詩・思想が取り上げられており，リード文や豊富な写真が，漢文で描かれた作品世界への興味関心を引き出すよう工夫されている。
4 創意工夫	学習意欲を高めるための配慮，用語・記号の取り上げ方および記述の方法	●教材理解に必要な地図・説明図などの図版が，教材に密接して掲載されており，授業で扱いやすいよう配慮されている。 ●付録では，古典の文法理解を助ける資料から文学史年表・故事成語まで，豊富に掲載されている。日本の色・服飾図など，ビジュアルな資料も豊富である。
5 印刷・造本等	印刷の鮮明度，活字の大きさ，行間，製本など	●紙質は白く，大きい活字を使用している。印刷は鮮明で，適所にあるカラー図版も生徒の学習意欲を高める。表紙はコーティングが施され，製本も堅牢である。
6 総合所見		●国語科の基礎的・基本的な内容を取り上げ，確かな読解力と思考力を身につけることが意図されている。 ●親しみやすく新鮮な教材で構成し，生徒の知的好奇心を刺激し，学習意欲を高めることが重視されている。